



GOKAN

五感を解放し

KIZUNA

絆で結ばれ

GENKI

元気に働く

な組織

7つの共通点

ご機嫌

人は誰も、心安らぐ環境の下で良き人間関係に支えられながら働きたいもの。そんな環境で働いている人は、きっと「ご機嫌」に違いない。「ご機嫌」に働ける環境と人づくりに挑戦し続ける企業の姿から、人生を豊かにする働き方の未来が見えてくる。

- 1 「会社のために」仕事をしない
- 2 給料が高ければ良い訳ではない
- 3 学歴やスキルは採用の決め手ではない
- 4 社員には教えない
- 5 結果よりもプロセスを重視する
- 6 オフィスは都会になくても良い
- 7 働きたい時間に働ける

「会社のために」仕事をしない

「これからは目の前にいる人を幸せにするために仕事をする」

都市計画コンサルティング
事業を行うアネックス(東京都渋谷区)社長の今井隆は10

年余前、社員たちの前でこう宣言した。

同社は1980年代の創業
当時から集合住宅やホテルのプロジェクト管理で数百億円

規模の案件を手掛けていた。しかし、バブル崩壊とともにこうした案件は下火に。業績が急速に悪化した。当時社員は10人余。年俸は業界標準以上のものを提供していたが、社員たちの間では「失業して社会から孤立するのではないかと」といった、何とも言えない不安感が広がっていた(今井)という。今井の目には、スタッフ間の関係もうまくいっているように見えなかった。

社員がやりたいことを事業に

「夢を売る仕事にもかかわらず、このままやってもスタッフは幸せになれないと思つた」。今井は「宣言」した時の心境をこう振り返る。これを機に、会社のために事業をやるのではなく、社員の幸せを実現するための手段として事業をするに決意した。

今井は「宣言」に引き続き、社員たちとの間で「4つの約束」をした。会社として以下の4つを担保する、としたのだ。

① **自分の存在が位置づけられ**

る良き仕事

② **人生のピンチが来ても孤立させない良き仲間**

③ **個人として生活しながらも孤立しない住まい(住宅取得資金を貸与)**

④ **安心・安全と自立の象徴としての主食(コメを提供)**

事業の方向性を模索していた当時、今井は出張先の台湾でピーター・ドラッカーの講演をテレビで見た。いわく、金融資本主義は終焉を迎え、これからは知識資本主義の時代になる――。これが何を意味するのか、自分なりに考えてみた。「こんな時代だからこそ、労働の代価としてお金だけではない価値を示したかった」(今井)。

今井はその後、これらの約束を果たすための事業を次々と展開した。「平成の合掌造り」と称して、東京都目黒区内に「3世代無血縁住宅」をプロデュース。ここには、姻戚関係のない90歳代の老夫婦と50歳代の夫婦、40歳代の独身女性が住む。40歳代の女性は同社の幹部社員だ。

また、同じく目黒区内に日本の里山の植生による緑化システム「5×緑」を取り入れた住宅を建設。ここにも幹部社員が住み、1階部分を賃貸している。

事業の舞台は都内にとどまらない。長年にわたってコンサルティングで縁のあった岩手県遠野市で、馬と暮らす南部曲り家スタイルの住まいを再現する宿泊施設「クイーンズメドウ・カントリーハウス」



アネックスが運営する宿泊施設「クイーンズメドウ・カントリーハウス」(岩手県遠野市)。馬と暮らす南部曲り家スタイルの住まいを再現した

神奈川県鎌倉市の面白法人カヤックのオフィス。仕事と遊びを両立させる環境づくりにこだわる。(右手前)代表の柳澤大輔